

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分
 【発行日】平成20年6月19日 (2008.6.19)

【公表番号】特表2004-528803(P2004-528803A)
 【公表日】平成16年9月24日 (2004.9.24)
 【年通号数】公開・登録公報2004-037
 【出願番号】特願2001-584514(P2001-584514)
 【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)
 A 6 1 K 39/205 (2006.01)
 A 6 1 K 39/395 (2006.01)
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)
 A 6 1 P 31/12 (2006.01)
 C 0 7 K 16/10 (2006.01)
 C 0 7 K 16/46 (2006.01)
 C 1 2 N 1/15 (2006.01)
 C 1 2 N 1/19 (2006.01)
 C 1 2 N 1/21 (2006.01)
 C 1 2 N 5/10 (2006.01)
 C 1 2 P 21/08 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
 A 6 1 K 39/205
 A 6 1 K 39/395 S
 A 6 1 P 25/00 1 0 1
 A 6 1 P 31/12 1 7 1
 C 0 7 K 16/10
 C 0 7 K 16/46
 C 1 2 N 1/15
 C 1 2 N 1/19
 C 1 2 N 1/21
 C 1 2 N 5/00 A
 C 1 2 P 21/08

【手続補正書】
 【提出日】平成20年4月28日 (2008.4.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 抗体重鎖及び抗体軽鎖から成る抗体をコードする分離された核酸であって、配列番号 3 のアミノ酸配列を有する抗体重鎖をコードする第 1 の核酸セグメントと、配列番号 4 のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖をコードする第 2 の核酸セグメントと、を有する分離された核酸。

【請求項 2】 前記第 1 の核酸セグメントは配列番号 1 のヌクレオチド配列を有し、前記第 2 の核酸セグメントは配列番号 2 のヌクレオチド配列を有する請求項 1 に記載の分離された核酸。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の核酸を有する発現ベクター。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の発現ベクターで形質転換され、前記発現ベクターによってコードされたポリペプチドを発現するようになっている宿主細胞。

【請求項 5】 狂犬病ウイルス中和抗体の製造方法であって、請求項 4 に記載の宿主細胞を培養することを含む製造方法。

【請求項 6】 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する重鎖ポリペプチドと、配列番号 4 のアミノ酸配列を有する軽鎖ポリペプチドと、を有する抗体。

【請求項 7】 (a) (i) 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する抗体重鎖ポリペプチドの可変領域をコードする第 1 の DNA 配列と、(i i) ヒト重鎖定常領域をコードする第 2 の DNA 配列と、を有する融合遺伝子によってコードされる免疫グロブリン重鎖と、(b) (i) 配列番号 4 のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖ポリペプチドの可変領域をコードする第 1 の DNA 配列と、(i i) ヒト軽鎖定常領域をコードする第 2 の DNA 配列と、を有する融合遺伝子によってコードされる免疫グロブリン軽鎖と、を有する抗体。

【請求項 8】 配列番号 3 のアミノ酸配列を有する抗体重鎖ポリペプチドのフラグメントと、配列番号 4 のアミノ酸配列を有する抗体軽鎖ポリペプチドのフラグメントと、を有し、狂犬病ウイルス中和活性を有する抗体フラグメント。

【請求項 9】 F v フラグメント、F a b フラグメント及び F (a b ')₂ フラグメントから成る群から選択される請求項 8 に記載の抗体フラグメント。

【請求項 10】 狂犬病ウイルスに曝露した個体を処置するための、請求項 6 若しくは 7 に記載の抗体又は請求項 8 若しくは 9 に記載の抗体フラグメント。